

第5回 マイケル・ノーベル・サステイナブル・テクノロジー・シンポジウム開催報告

日印地域スマート・シティー作り - 日本とインドの国際産学連携

2016年5月26日、早稲田大学西早稲田キャンパス

早稲田大学大学院国際情報通信研究科大谷研究室との共催、地域活性学会と日本建築学会の後援、ノーベル・サステイナビリティ・トラスト(NSF)等8団体の協賛を得て開催した。

再生可能エネルギーを中心とした日本の地域イノベーション・プロジェクトを発展させ、医療と健康を含めたスマート・シティー作りやバイオ技術利用のスマートファーム作りに向けた境界技術領域の国際的課題について討議した。

ノーベル博士の再生可能エネルギーに関する基調講演に続き、国土交通省の館審議官が日本の2050年に向けた地域活性化「グランドデザイン2050」について講演した。インドからはハリアナ州チャンディガール市のスマート化に対する日印での産学官連携の提案があった。これに続き、バイオ技術、建築技術、医療技術、スマート化技術について、持続性の観点から7つの講演があった。最後に、ノーベル博士、館審議官、国友TeFFA副理事長によるまとめを行った。

